



この小冊子は、いま日本を研究しようとしてゐる中国の若い人たちに「日本に於ける中国文化」と題して研究の端緒の一つを与えようとした草案であるが、日本の読者にも頒ちたいといふことになつて、その日本向けの方だけ書名を更へ、「古文と漢文」とした。内容は全く同一である。

目次

I はしがき……………5

II 中国の大変は日本の大変となつた……………7

III 日本と中国との史的環境は、かう違ふ……………17

IV 「かな」と漢字……………21

V 文芸に於ける志向の差……………33

VI 日本文化と長江流域……………47

参考資料篇

1	万葉集の讀酒歌に遺る「七賢」といふ語……………59	9	方丈記に於ける莊子……………82
2	王羲之の蘭亭序に做つた万葉集の梅花歌の序……………62	10	徒然草に於ける莊子……………85
3	玉台新詠集が読まれた痕跡……………64	11	蒙求が読まれた痕跡……………88
4	古今集に於ける白氏文集……………66	12	芭蕉に於ける莊子……………91
5	枕冊子に於ける白氏文集……………70	13	芭蕉に於ける蘇軾……………93
6	源氏物語に於ける白氏文集……………72	14	古文真宝後集に做つた風俗文選の分類……………97
7	源氏物語に於ける史記……………75	15	伽婢子に於ける剪燈新話の翻案……………108
8	白氏文集の池上篇から慶滋保胤の池亭記へ……………78	16	兩月物語に於ける剪燈新話……………112
		17	蕪村の俳文……………116
		18	蕪村の倭詩……………121
			参考地図……………125
			関係年表……………129

6 源氏物語に於ける白氏文集

白氏文集卷二十八(卷五十八)

○予与_レ微_レ之老而無_レ子、発_レ於言_レ歎、著在_レ詩篇、今年冬各有_二子_一、戯作_二二什_一、一以相賀、一以自嘲、

微之居 多水竹 微之文集 凡一百卷

「常憂到_レ老都無_レ子 何况新生又是兒
陰德自然宜_レ有_レ慶 皇天可得道無知
一園水竹今為_レ主 百卷文章更付誰
莫慮鵝雛無_レ浴処 即應重入_二鳳凰池_一」

自嘲

五十八翁方有_レ後 静思堪_レ喜亦堪_レ嗟
一珠甚小還慚_レ蚌 九子雖_レ多不_レ羨_レ鴉
秋月晚生丹桂実 春風新長紫蘭芽
持_レ盃祝願無_レ他語 慎勿_レ頑愚似_二汝爺_一

源氏物語 柏木ノ帖

○「静かに思ひて嗟_レくに堪_レへたり」と、うち誦_レじたまふ。「五十八」を十_レ取り捨_レてたる御_レ齡なれど、末になりたるこちしたまひて、いとものあはれにおぼさる。「汝_レが爺_レに」ともいさめまほしうおぼしけむかし。

*身一遣 *管一貫 *朝一朔 *身一遺 *潜一雙 *骨一力 *家一塚 *艸一草 *度一渡 *旁一傍

*耳一口 *駝一驅

*声一唱

○縛戎人、縛戎人

耳穿_レ面破駝_レ入_レ秦 天子矜_レ憐_レ不忍_レ殺
詔徙_二東南吳與_レ越 黄衣小使録_二姓名_一
領出_二長安乘_レ遞行 身被_二金瘡面多瘡
扶_レ病徒行日一駅 朝飡飢渴費_二杯盤_一
夜臥腥臊汚_レ牀席 忽逢_二江水憶_レ交河
垂_レ手齊_レ声鳴咽歌 其中一虜語_二諸虜_一
尔苦非多我苦多 同伴行人因借問
欲説喉中氣憤憤 自云鄉管本涼原
大曆年中没_二落蕃 一落蕃中四十載
身著_二皮裘繫_レ毛帶 唯許_二正朝服_レ漢儀_一
歛_レ衣整_レ巾潜_レ淚垂 誓_レ心密定_二歸鄉計_一
不_レ使_レ蕃中妻子知 暗思幸有_二殘筋骨_一
更恐_二年衰婦_レ不得 蕃候嚴_レ兵鳥不_レ飛
脱_レ身冒_レ死奔_レ逃_レ婦 昼伏宵行經_二大漠_一
雲陰月黑風沙惡 驚藏_二青冢寒_レ艸_一疎
偷_レ度_二黄河夜_レ冰薄 忽聞_二漢軍鼙鼓_一聲
路旁走出再_レ拜迎 游騎不_レ聽_二能_レ漢語_一